

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2019年7月26日
【四半期会計期間】	第31期第1四半期（自 2019年3月21日 至 2019年6月20日）
【会社名】	株式会社アジュバンコスメジャパン
【英訳名】	A D J U V A N T C O S M E J A P A N C O . , L T D .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 松井 健二
【本店の所在の場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【電話番号】	078(351)3100（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 中川 秀男
【最寄りの連絡場所】	神戸市中央区下山手通五丁目5番5号
【電話番号】	078(351)3136
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部本部長 中川 秀男
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第30期 第1四半期連結 累計期間	第31期 第1四半期連結 累計期間	第30期
会計期間	自 2018年3月21日 至 2018年6月20日	自 2019年3月21日 至 2019年6月20日	自 2018年3月21日 至 2019年3月20日
売上高 (千円)	1,288,336	999,648	5,163,649
経常利益又は経常損失 () (千円)	60,709	164,957	251,495
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 () (千円)	32,962	140,437	25,061
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	28,851	141,150	25,453
純資産額 (千円)	4,502,009	4,218,015	4,550,100
総資産額 (千円)	5,835,968	5,447,229	5,870,832
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失 () (円)	4.17	17.65	3.16
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	4.14	-	3.14
自己資本比率 (%)	77.1	77.4	77.5

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株あたり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株あたり四半期純損失であるため記載しておりません。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

（1）財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出や生産の弱さが続いているものの、緩やかに回復しておりますが、本年10月に予定されている消費税増税の影響が懸念されております。一方では海外経済において、通商問題の動向等による世界的なリスクに留意が必要な状況となっております。

美容業界におきましては、顧客単価の下落、来店サイクルの長期化等、サロン^{注1}経営において厳しい環境が続いており、当社商品を販売するアジュバンサロン^{注2}においても同様の影響がありました。

このような状況のもと、当社グループは、営業方針を「年間販促計画の策定と実行」「カウンセリングの知識・技術の習得」「アフターフォローの習慣化」「顧客分析の徹底と関係性の強化」として掲げ、サロンの安定した経営サポートを目指しております。

また、社員教育制度の一新、サロンアンサーシステム^{注3}導入サロンの拡充、下期にリニューアル予定であるスキンケア商品のプロモーション等を積極的に行い、成長のための基盤づくりを進めてまいりました。

売上高につきましては、当第1四半期連結累計期間の売上高は999百万円（前年同期比22.4%減）となりました。詳細は区分別売上高の概要を参照ください。なお、アジュバンサロン登録軒数につきましては、当第1四半期連結会計期間末で7,443軒（前期末比83軒増）となりました。

売上高の減少及び人件費等の一般管理費の増加により利益面では、営業損失170百万円（前年同期は営業利益52百万円）、経常損失164百万円（前年同期は経常利益60百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は140百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益32百万円）となりました。

区分別売上高は、売上割戻金を含めて次のとおりであります。

区分	前第1四半期連結累計期間		当第1四半期連結累計期間		増減額 金額（百万円）	増減率 （％）
	金額（百万円）	構成比（％）	金額（百万円）	構成比（％）		
スキンケア	435	33.8	367	36.7	68	15.8
ヘアケア	761	59.1	535	53.5	226	29.7
その他	175	13.6	168	16.9	6	3.9
売上割戻金	84	6.5	71	7.1	13	-
合計	1,288	100.0	999	100.0	288	22.4

（注）1．エクシードシステム株式会社（連結子会社）、ADJUVANT HONG KONG COMPANY LIMITED（連結子会社）の売上高は、「その他」に含んでおります。

2．売上割戻金は、商品ごとではなく売上高の合計を基準として割戻率を設定しているため、区分ごとに配賦せず合計額で表示しております。

国内海外別売上高は、次のとおりであります。

区分	前第1四半期連結累計期間		当第1四半期連結累計期間		増減額 金額（百万円）	増減率 （％）
	金額（百万円）	構成比（％）	金額（百万円）	構成比（％）		
国内売上高	1,199	93.1	921	92.2	278	23.2
海外売上高	88	6.9	78	7.8	10	11.8
合計	1,288	100.0	999	100.0	288	22.4

当社グループは、単一セグメントであるためセグメント別の記載はしていませんが、区分別売上高の概要は以下のとおりであります。

(スキンケア)

スキンケア商品の売上高は、当期よりスタートした新キャンペーン制度の浸透に時間を要した事と、変更前制度の期末駆け込み需要の影響により減少いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は367百万円(前年同期比15.8%減)となりました。

(ヘアケア)

ヘアケア商品の売上高は、当期よりスタートした新キャンペーン制度の浸透に時間を要した事と、変更前制度の期末駆け込み需要の影響に加えて、前期リリースしたクラスSシリーズの販売が平準化したことから減少いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は535百万円(前年同期比29.7%減)となりました。

(その他)

サロンアンサーシステムにおきましては、当第1四半期連結会計期間末における契約件数が536件となり、順調に推移しております。

当第1四半期連結累計期間の売上高は168百万円(前年同期比3.9%減)となりました。

注1「サロン」

理美容室・エステティックサロン・ネイルサロン・アイラッシュサロン・美容クリニック等を指します。

注2「アジュバンサロン」

初回に100千円以上の仕入を行い、当社グループが指導する商品の案内方法等を定めたアジュバンサロン契約を締結したサロンを指します。

注3「サロンアンサーシステム」

エクシードシステム株式会社(子会社)が販売する、クラウド型経営サポート(サロンの顧客管理、経営分析)システムを指します。

財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して423百万円減少し、5,447百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して402百万円減少の2,570百万円となりました。主な変動要因は、現金及び預金の減少356百万円、受取手形及び売掛金の減少60百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して21百万円減少の2,876百万円となりました。主な変動要因は、投資有価証券の元本償還等による減少56百万円によるものであります。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して90百万円減少の742百万円となりました。主な変動要因は、未払法人税等の減少104百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して1百万円減少の486百万円となりました。主な変動要因は、長期借入金の減少5百万円、その他の固定負債の増加3百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して332百万円減少の4,218百万円となりました。主な変動要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失による減少140百万円、配当金の支払による減少190百万円によるものであります。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、41百万円であります。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,000,000
計	22,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年6月20日)	提出日現在発行数(株) (2019年7月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,962,000	7,962,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	7,962,000	7,962,000	-	-

(注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。

2. 「提出日現在発行数」欄には、2019年7月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年3月21日～ 2019年6月20日	-	7,962,000	-	757,730	-	717,662

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年3月20日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年6月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,953,700	79,537	(注)
単元未満株式	普通株式 1,900	-	-
発行済株式総数	7,962,000	-	-
総株主の議決権	-	79,537	-

(注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社の標準となる株式であります。なお、1単元の株式数は、100株であります。

2. 「単元未満株式」の欄には、当社保有の自己株式3株が含まれております。

【自己株式等】

2019年6月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社アジュバンコスメジャパン	神戸市中央区 下山手通5丁 目5番5号	6,400	-	6,400	0.08
計	-	6,400	-	6,400	0.08

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年3月21日から2019年6月20日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年3月21日から2019年6月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,386,853	1,029,908
受取手形及び売掛金	612,209	552,156
有価証券	100,000	100,000
商品及び製品	704,834	741,583
仕掛品	15,694	24,056
原材料及び貯蔵品	40,340	49,125
その他	117,666	78,067
貸倒引当金	4,676	4,214
流動資産合計	2,972,922	2,570,684
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,133,414	1,133,407
土地	720,678	720,678
その他	423,700	438,028
減価償却累計額	547,789	573,266
有形固定資産合計	1,730,004	1,718,847
無形固定資産		
投資その他の資産	39,669	35,020
投資有価証券	819,338	763,237
その他	318,309	368,720
貸倒引当金	9,413	9,281
投資その他の資産合計	1,128,235	1,122,676
固定資産合計	2,897,909	2,876,545
資産合計	5,870,832	5,447,229
負債の部		
流動負債		
買掛金	149,350	188,333
1年内返済予定の長期借入金	20,100	20,100
未払法人税等	118,000	13,206
賞与引当金	103,418	174,070
その他	441,767	346,654
流動負債合計	832,636	742,365
固定負債		
長期借入金	17,755	12,730
退職給付に係る負債	40,178	40,907
資産除去債務	15,355	15,350
長期未払金	384,470	384,470
その他	30,335	33,391
固定負債合計	488,095	486,849
負債合計	1,320,731	1,229,214

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月20日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	757,730	757,730
資本剰余金	729,434	729,434
利益剰余金	3,067,591	2,736,219
自己株式	5,833	5,833
株主資本合計	4,548,922	4,217,551
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	802	1,341
為替換算調整勘定	1,979	1,805
その他の包括利益累計額合計	1,177	464
純資産合計	4,550,100	4,218,015
負債純資産合計	5,870,832	5,447,229

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年6月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)
売上高	1,288,336	999,648
売上原価	515,989	415,080
売上総利益	772,346	584,568
販売費及び一般管理費	719,898	755,458
営業利益又は営業損失()	52,448	170,890
営業外収益		
受取利息	1,354	11
受取配当金	173	7,131
受取家賃	1,630	450
雑収入	3,647	723
為替差益	1,599	-
営業外収益合計	8,405	8,316
営業外費用		
支払利息	62	32
為替差損	-	2,351
雑損失	81	-
営業外費用合計	144	2,384
経常利益又は経常損失()	60,709	164,957
特別利益		
固定資産売却益	396	-
特別利益合計	396	-
特別損失		
固定資産売却損	1,981	-
固定資産除却損	-	2,811
特別損失合計	1,981	2,811
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	59,124	167,769
法人税、住民税及び事業税	52,640	11,781
法人税等調整額	26,477	39,114
法人税等合計	26,162	27,332
四半期純利益又は四半期純損失()	32,962	140,437
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	32,962	140,437

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年6月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)
四半期純利益又は四半期純損失()	32,962	140,437
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14	538
為替換算調整勘定	4,124	174
その他の包括利益合計	4,110	713
四半期包括利益	28,851	141,150
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	28,851	141,150
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年6月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)
減価償却費	18,343千円	27,487千円
のれんの償却額	4,729千円	-千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年3月21日 至 2018年6月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月15日 定時株主総会	普通株式	189,888	24	2018年3月20日	2018年6月18日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月14日 定時株主総会	普通株式	190,934	24	2019年3月20日	2019年6月17日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年3月21日 至 2018年6月20日)

当社グループは、アジュバン化粧品の商品企画、研究開発、販売及びこれに附帯するサービス業務を営む単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)

当社グループは、アジュバン化粧品の商品企画、研究開発、販売及びこれに附帯するサービス業務を営む単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年6月20日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年6月20日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 ()	4.17円	17.65円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	32,962	140,437
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	32,962	140,437
普通株式の期中平均株式数(株)	7,912,000	7,955,597
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	4.14円	-円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	47,283	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年7月26日

株式会社アジュバンコスメジャパン
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西野 尚弥 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 雅史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アジュバンコスメジャパンの2019年3月21日から2020年3月20日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年3月21日から2019年6月20日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年3月21日から2019年6月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アジュバンコスメジャパン及び連結子会社の2019年6月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。